

## 憲法改悪を許さない私たちの決意表明

いま、政府・自民党は「自民党改憲草案」を掲げ、日本国憲法を改悪しようとしています。私たちは、この「自民党改憲草案」はもとより、憲法改悪の動きに反対し、祈り、行動することを決意します。

私たち教会は、かつて戦前・戦中に犯してしまった過ちを心に刻みます。天皇を神格化し、日本を神国と信じ、アジア近隣諸国への侵略戦争を正当化していった時代の中で、私たち教会はそれに迎合し加担し、神ならぬものに膝をかがめ、教会の保身を選んでしまったのです。アジア近隣諸国にもたらした惨劇、日本各地での空襲、沖縄戦、ヒロシマ・ナガサキなどの悲劇を経て日本が敗戦に至ったとき、私たち教会も同様に破綻し、自らの生き方に敗北したのです。

そして制定された「日本国憲法」は、「主権在民」「基本的人権の尊重」「戦争の放棄」を柱とする新しい世界への招きでした。人間の生命・人格の尊重と、平和をつくりだす人となることは、本来教会こそが、聖書の真理として解き明かさねばならなかったものでした。私たち教会は、「日本国憲法」に問われたのです。しかし、まさにその時、私たち教会を問い、悔い改めを迫ったのは、和解を成し遂げようと招き続けておられる平和の主イエス・キリストご自身でした。

私たちは「戦後」70年近くを歩んできて、今、改めて問われています。あの時の招きに応えて生きているか、と。真<sup>まこと</sup>の神を神として恐れ従い、それゆえ人間世界の諸力に身を屈せず、神の義に立ち、平和をつくりだす者として生きることができているか、と。

「日本国憲法」は、決して古い思想や枠組みではありません。人と人々が共に生き、社会をつくる原理とビジョンであり、それは世界の人々が認めるどころです。戦後の日本の歴史もそれへの途上であり、その道を目指して歩んできました。ですから「日本国憲法」は、決して「現実」に即して修正・廃棄されるべきものではなく、そこに向かって歩むべきものなのです。

戦争はしない、戦争はしてはならない。それが、主イエス・キリストに従う私たちの道です。それゆえ、「しても良い戦争」があるかのように考え、戦争ができるよう企てる憲法改悪を、私たち教会は許すことができません。

私たち教会は、自らの戦争責任を心に刻みます。

私たち教会は、これからも、国民主権、人権の尊重、戦争の放棄を堅持します。

私たち教会は、国家による宗教の政治利用、教育への介入に反対します。

私たち教会は、集団的自衛権の行使、特定秘密保護法の制定、国家安全保障会議の創設に反対します。

私たち教会は、「日本国憲法」が改悪されないために祈り、連携し、また行動します。

わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。（フィリピの信徒への手紙3章12節）

2013年11月15日 日本バプテスト連盟第59回定期総会

文言訂正 2014年11月14日 日本バプテスト連盟第60回定期総会

※第59回総会にて決議された声明文中の聖句引用で、「**務**めて…」の誤記について、第60回総会において「**努**めて…」に文言訂正を決議した。